

線形代数演習 II 小テスト

担当：若木 宏文

平成 29 年 10 月 12 日実施

学籍番号

氏名

問題 ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は一次独立であるとする.

$$c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + \dots + c_n\mathbf{a}_n = d_1\mathbf{a}_1 + d_2\mathbf{a}_2 + \dots + d_n\mathbf{a}_n$$

ならば, $c_1 = d_1, c_2 = d_2, \dots, c_n = d_n$ であることを証明せよ.

線形代数演習 II

担当：若木 宏文

平成 29 年 10 月 12 日配布

ベクトルの一次独立と一次従属 n 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が独立であるとは、

$$c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + \dots + c_n\mathbf{a}_n = \mathbf{0} \text{ ならば } c_1, c_2, \dots, c_n = 0$$

が成り立つことである。一次独立でないとき、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は一次従属であるという。

問題

5. クラメル公式を用いて、次の行列の逆行列を計算せよ。

$$(1) \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 0 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \end{pmatrix} \quad (3) \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ -1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$$

6. 次のベクトルの集合が一次独立かどうか調べよ。

$$(1) \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 7 \\ 6 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 5 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 6 \\ 1 \\ 4 \end{pmatrix} \quad (3) \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 8 \\ 5 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$$

7. n を自然数とする。 $n+1$ 本の n 次元実ベクトルは必ず一次従属であることを示せ。

8. $n \times n$ 行列 A の各列を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$, また、 tA の各列を $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n$ とする。すなわち、 $A = (\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \dots \ \mathbf{a}_n)$, ${}^tA = (\mathbf{b}_1 \ \mathbf{b}_2 \ \dots \ \mathbf{b}_n)$ である。このとき、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次独立であるための必要十分条件は、 $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n$ が一次独立であることを示せ。

9. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を m 次元複素ベクトルとする。 $j = 1, 2, \dots, n-1$ に対して $\mathbf{b}_j = \mathbf{a}_j + \mathbf{a}_{j+1}$ とし、 $\mathbf{b}_n = \mathbf{a}_n$ とする。 $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n$ が一次独立であるための必要十分条件は $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次独立であることを示せ。

10. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を m 次元複素ベクトルとし、 A を m 次正方行列とする。

- (1) $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次従属ならば $A\mathbf{a}_1, A\mathbf{a}_2, \dots, A\mathbf{a}_n$ も一次従属であることを示せ。
- (2) $A\mathbf{a}_1, A\mathbf{a}_2, \dots, A\mathbf{a}_n$ が一次独立ならば、 $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ も一次独立であることを示せ。
- (3) $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次独立で、かつ、 A が正則ならば $A\mathbf{a}_1, A\mathbf{a}_2, \dots, A\mathbf{a}_n$ も一次独立であることを示せ。

11. $m < n$ とし、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_m$ を一次独立な n 次元実ベクトルとする。 ${}^t\mathbf{b}\mathbf{a}_i = 0$ ($i = 1, 2, \dots, m$) を満たす \mathbf{b} 零ベクトルでないものが存在し、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_m, \mathbf{b}$ も一次独立となることを示せ。

12. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を n 次元複素ベクトルとする。 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が一次従属ならば、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ の一次結合として表せないような n 次元複素ベクトル \mathbf{b} が存在することを示せ。

13. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を n 次元実ベクトルで、いずれも零ベクトルでないとする。任意の異なる n 以下の自然数 i, j について、 ${}^t\mathbf{a}_i\mathbf{a}_j = 0$ ならば、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は一次独立であることを示せ。